



な か す ぎ

一杉並稲門会 第4ブロック報一

Vol. 12



杉並稲門会第4ブロックの皆様へ

新一万円札の顔になる渋沢栄一が脚光をあびていますが、地方にいた彼の才能を見込んで大蔵省にヘッドハンティングしたのは大隈重信侯でした。渋沢だけでなく政界では犬養毅・尾崎行雄、大学では小野梓・高田早苗などを抜擢した大隈侯の眼力は確かなものでした。話が飛躍するかもしれませんが、私達も大隈侯の「進取の精神」「学の独立」を担う者として、お眼鏡に叶い選ばれたのかもしれない。

第62回・63回懇親会

第62回懇親会は3月1日(金)に本部三役や新会員・入会予定者もお迎えし、総勢50名の参加者で開催された。会場はハンバーグで有名な荻窪の「つばめグリル」。美味しい料理とビールを楽しみながら歓談が盛り上がった後は、映像を使ったクイズ大会が行われた。今回が平成時代の最後の懇親会になるので、平成を振り返り大学と杉並区にちなんだ問題が出された。「平成で首相を務めた早稲田出身の政治家は何人いるのでしょうか」など難問ぞろいの皆様は頭を悩ましておられた。クイズの上位入賞者には早稲田グッズが進呈され、最後に次期会長予定の長谷川副会長の中締めで、約2時間の懇親会は目出たくお開きになった。※役職は当時

第20回・21回社会見学ツアー



5月31日(金)に開催された第20回社会見学ツアーは、45名の参加で開催された。今回は「美味しん坊の見学会」と題し、往路で建設中の「新国立競技場」に寄った以外は全て食に関連のある場所を廻った。お昼の横浜中華街で老舗「萬珍樓」での食事と散策を挟んで、午前はピカピカの「豊洲市場」、午後はNHK朝ドラで有名になった安藤百福氏の「カップヌードルミュージアム」と二つの旬の施設を見学した。

第21回社会見学ツアーは「東京タイムスリップツアー」として東京にある明治・大正時代の歴史的スポットを訪れる企画。48名の参加で10月8日(火)に行われた。まずは赤坂のパワースポット「豊川稲荷東京別院」からスタートし、日本初のラジオ本放送をした「愛宕山NHK放送記念館」、明治天皇が愛し度々訪れた「浜離宮」、日本の鉄道の原点「旧新橋停車場」を訪れる。築地市場で食事と買い物を楽しんだ後は、今回の目玉「迎賓館赤坂離宮」。明治時代の建築と美術・工芸の粋を結集して作られた、ネオ・バロック様式の宮殿と庭園は感動的だった。



一金会

コメンテーターのお話と歓談の「一金会」は4回開かれた。
・4月～金井俊夫さんの「1980年頃のイラン・バクダッドの中心街で街づくりのプロジェクトに参加して」
・6月～矢島章さんの「民間からの司法参加」
・9月～島田文夫さんと大田忠雄さんの「昭和49・50年当時の就職事情」
・11月～田村純利さんの「趣味の世界・随筆と短編朗読」



7月7日(日)に久しぶりの会場となる「座・高円寺」2階の「アンリ・ファール」で第63回懇親会が催された。今回は暑気払いを兼ねる気さくなと会と云うことで他ブロックにあまり声を掛けなかったもので、参加者は29名だった。お陰で席がゆったりでリラックスして懇親ができた。また、会場が広く自由に移動出来たので、皆様は席を廻って沢山の方とコミュニケーションされていた。今回もお楽しみ企画はクイズ大会。オリンピック・早稲田・杉並区に関する出題があり、正解者には記念品が渡された。最後に大田世話人のリードで校歌の合唱とエールを行い、英気を養う暑気払い会は散会した。



追悼

井口昌彦さん(1958年政経学部卒)

井口昌彦さんが8月30日にご逝去されました。享年83歳でした。井口さんは2代目世話人代表として、懇親会の定例化、社会見学ツアーや一金会の創設など第4ブロックの発展に多大な貢献をされました。今回は井口さんを偲んで親交の深かった2名の方から追悼文を寄稿していただきました。



第4ブロック3代目世話人代表 百地 健

あなたは私にとって最良の同志であり、人生の先生であった。志は高いが名誉欲は無く、母校をこよなく愛し、杉並稲門会の発展に尽力された。井口さんは初期の第4ブロック世話人代表として、会員増強活動の先頭にたたれた。また、年4回の懇親会、春秋の社会見学ツアー、毎月開催の一金会は何れも彼の企画力から生まれた。また井口さんは大変多才な方で、趣味の会ではクラシック音楽・カラオケ・麻雀など各部会に属し、プライベートではオペラ、宝塚歌劇、旅をこよなく愛した。

私が井口さんを継いで世話人代表になった後も、いろいろとアドバイスをいただいた。メールの発信が0時を過ぎることも多く、お年を考えると無理をされていたように思える。ただ、その日の仕事は当日中に終わらせる元銀行マンの井口さんらしい習性だったのだろう。

一金会は、JETRO勤務の故竹田一平さんから「北京万博」について講演していただいたのが始まりだったが、井口さんは実際に北京万博に行き企画を練ったと聞く。昨年、自ら従兄の井口武夫氏著の「開戦神話・対米通告はなぜ遅れたのか」をテーマとした講演をされた。準備に苦勞されたようだが、素晴らしいお話だった。社会見学ツアーは会員の森村さんと井口さんが構想を作り、当時は東京都観光ボランティアガイドだった私の経験も活かして誕生した。第1回目は元JALのパイロットだった水野さんの紹介でJAL整備工場の見学だったが、その後も各企業のOBの方や杉並郷土史会会長の新村さんなどの協力を得て発展している。

私は月に一回はカラオケ会で井口さんとお会いしていたが、体調が悪くなれば6月から休まれており8月30日に亡くなられた。杉並稲門会20周年パーティーで同席したかった同年代の友人との別離は大変に寂しい。井口さん、大変にお世話になり有難うございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌。



早慶戦で応援する井口さん(右から二人目)

第4ブロック長老世話人 水野健樹

昨日まで見知らぬ人だったが、あの日から知り合いになった。平成11年11月11日に杉並稲門会の設立総会に参加した私は井口さんと出会い、その後に第4ブロックでリーダーシップを発揮する彼と親密な仲になっていった。

ある日、「どこか良い床屋を知らないか」と云う井口さん。聞けば行きつけの床屋と喧嘩をしてしまったそうだ。井口さんは髪を7-3に綺麗に分け、いつもきちんとした典型的な銀行員の髪型だった。多分、月に2度は散髪しておられたのだろう。思い出せば歯科医院でも同じような経験があり、あっちこっちと変えていかれた。井口さんはいつ会っても清潔感のある容姿をされておられ、人付き合いも大変に良い方だったが、一方では喧嘩早い人柄だったのかもしれない。11月9日には杉並稲門会創立20周年記念パーティーが挙行される。井口さんも元気だったらきっと参加されていたと思うと残念だ。

井口さんは亡くなってお浄土に帰られ仏様になられました。冥途をさまよっているのではありません。よってご冥福をお祈りしますとは言いません。謹んで哀悼の意を捧げます。井口さんが努力し指導力を発揮した第4ブロックは、今や杉並稲門会の中心的ブロックとして輝いています。



美術展にて(後列右から3人目が井口さん、前列左から2人目が百地さん、3人目が水野さん)

訃報

井口さんのほかに、2名の方がお亡くなりになりました。
・米原高平さん(6月18日)阿佐谷北 1962年政経学部卒
～退職後は陶芸家として作品を発表される一方、自宅で陶芸教室を開くなど趣味人として生きられました～
・久保 昭さん(7月16日)成田東 1959年政経学部卒
～学院で河野洋平氏と同級だった生粋の早稲田人。お元気な頃はウォーキングを楽しんでおられました～
謹んでお悔やみ申し上げます。

新会員の皆様をご紹介します

新しく二名の方が入会されましたのでご紹介します。

- ・大西 恵さん 阿佐谷北 1978年文学部卒
 - ・園田 猛美さん 阿佐谷北 1975年法学部卒
- ※入会順

今後の催事スケジュール

- ・12月7日(土)第64回懇親会 会場:阿佐ヶ谷神明宮
※川柳つくし師匠(第4ブロック)の落語会付きです
- ・1月10日(金)第53回一金会
- ・2月7日(金)第54回一金会

情報やご意見をお寄せください

発行責任者:第4ブロック世話人代表 西野正浩

編集責任者:柄谷隆宏 ☎03-5932-2598

メールアドレス:t.karatani@jcom.home.ne.jp

2019年11月発行